

私たちは将来ここに暮らす。

- 1 自治体名 沿海地方 (Primorsky Territory)
- 2 発表者名 コスチェンコ M. V. (Kostenko M. V.)
ハサンスキー (Hasanskiy) 地方ザルービノ (Zarubino) 村総合学校
- 3 活動名 私たちは将来ここに暮らす。

4 活動要旨

環境保全是現在最も重視されている課題である。人間による環境への影響は一方的で、自然を利用するという目的であり、これは自然のバランスを破壊する。

私たちは、沿海地方で最もきれいなところ、ハサンスキー (Hasanskiy) 地方ザルービノ (Zarubino) 村に住んでいる。この村の植物と動物界は、豊富でユニークなものが多い。

自然の美しさは、大都会から離れて初めて感じるようになる。

私たちの村は日本海クジラ湾の海岸に位置している。水は昔から人間を招く。きれいな入江と汚染されていない水はバケーションを過ごすために最適な場所、海底の環境も数多くの動物と植物がいて、美しく面白い。

しかし、近年、湾の発展・開発によって発生する汚染源が原因で、一部の地域の環境は悪化している。油の排出による有機汚染も少なくない。

村には海洋を利用する 2 件の企業、海洋資源採取・加工をする企業と海運企業がある。これらの企業もクジラ湾の環境に影響を与える。海洋資源を採取・加工をする企業は、汚染されている排水を海に流して海の環境を破壊する。海を利用する貨物船と客船からはペットボトル、使い捨て食器、紙類、木材ボックスなどのごみが発生する。

幸い、海洋環境には大型ごみの塊 (かたまり) が少なく、水は透明で今のところ海水浴も可能である。美しく、きれいな海岸は数多くの観光客を招く人気休息スポットであるが、隣の地方や市から来た観光客は美しい自然と海水浴を楽しんだ後、ごみの山、折った木の枝などを残している。

この自然環境破壊を見ながら、私たちの学校は部活活動として環境保全を選んだ。

学校の環境保全活動は下記の分野を含んでいる。

- 1 . 生徒、村の住民、観光客の環境啓発、環境保護宣言
- 2 . 環境保全事業の実施、対策

この課題を果たすために、学校で環境クイズ、環境保全新聞を発行し、環境保護宣言団を設立して住民に説明会を実施、環境啓発パンフレットを配布している。

住民の間で実施したアンケート調査の結果から、環境問題は興味深いことが明らかになった。

また、環境監視団を設立し、観光客の最も多い海岸とハスが咲いている湖の岸辺を監視している。

他にも、地方、地域、国際レベルの環境事業に参加している。環境保全に取り組んでいることから、2001 年に学校は「グリーン学校」と名づけられた。「グリーン学校」としても環境をテーマにした様々なイベントを実施している。

「私たちは将来ここに暮らす」事業

生徒、住民、保育園で説明会を実施し、環境啓発パンフレットを配布した。ザルービノ村とアンドレーエフカ村 (Andreevka) で、WWF と村役場の支援を得て、子供たちと住民による海岸の掃除が行われた。村役場はごみを入れる袋などを提供し、ごみの運送を担当した。

「きれいな海岸」事業

海岸沿いを掃除するこの事業は慣行的になった。海嵐の後に漂着するビンや食器などのごみが非常に多い。

「海は愛情の場所」事業

観光客の最も多い夏に行われる観光客啓発事業で、ボランティア団体が海水浴場を回って、ごみを持ち帰るように呼びかける。

また、私たちは住民や村役場にリサイクルに取り組むように呼びかけている。既に学校では、生活廃棄物を様々な場面で使用している。例えば、ペットボトルで花瓶などを作っている。

学校では「海の日」、「クジラの日」、「鳥の日」、「アムールタイガーの日」、「土の日」、「地球環境の日」、「豹の日」などのイベントが実施されている。これらのイベントは楽しく、参加者も非常に多い。「海の日」を開催する前に学校内・住民内で海の知識に関するアンケート調査を実施する。この日のイベントに環境保全団体「虎」と「豹」の代表を招待する。この日の準備として海をテーマにした絵、詩、発表のコンテストを行い、海の現状について話し合う。

また、この日に、特別招待客によって海の環境、問題、解決方法に関する基調講演も行われる。

環境保全事業の実施、対策については、「貴重な植物の保護」、「海の生物多様性保護」、「クジラ湾の海岸浄化活動」、「廃棄物と私たちの健康」という事業を実施している。この事業は村における環境問題解決に努めている。

例えば、「廃棄物と私たちの健康」の事業は生徒や住民の参加によって実施され、「廃棄物がどのように人間の健康へ影響するか」という説明会が開催された。

また、地元の新聞を通じて、村をきれいに保つように呼びかけた。

このような事業は生徒と住民の環境啓発に努め、人の環境問題への認識を高めて、身近な自然環境を破壊から守る心を育てる。

環境事業の実施や準備にあたって、WWF、地方エコクラブ「ロトス」(Lotos)、「エンデミック」(Endemik)、「ラーデウガ」(Raduga)、環境保全団体「虎」と「豹」、様々な国内・海外環境組織から情報提供、参考文献の提供などの協力が得られた。